

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	後藤 正孝
主な担当科目	ピアノ教養特論Ⅰ,ピアノ教養特論Ⅱ,指導法特別演習,ピアノ
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	2025年度は前年度と比較して主科の学生が増え、レッスンにおいて各学生に対してよりきめ細やかな配慮と対応が要求されるようになりました。引き続き演奏で示していくのが私のスタイルではありますが、ただ弾くだけではなく言葉でこういう音を出すには身体をどのように使えば良いのか、など、伝え方を工夫することにも気をつけました。また自分自身のレッスンの記録として簡易的なレッスンノート(メモ書き程度)のようなものも時折書くようになりました。
2025年の教育に関する自己評価	本当に様々な学生が本学にはいます。自分の教え方が悪いのかな・・・と思うようなこともありました。学生ひとりひとりととことん向き合い、レッスンの中でたくさんコミュニケーションを取ることも意識しました。また実技の担当教員ですが、技術や音楽性の向上だけでなく、ひとりの人間としての人間性の成長していけるよう、人生の先輩として自分自身の経験をなるべく伝えようと努めました。まだまだ言葉足らずになることもあり、難しい部分もあると痛感しておりますが、引き続き学生の様子を注視し、きめ細やかな教育を目指して参ります。
2025年のFD活動に関する自己評価	今年度も引き続き所属する鍵盤楽器部会でのFD研修会に力を入れて参りました。グループワークでのファシリテーターや他の鍵盤楽器部会の先生方、特に非常勤の先生方との情報交換を積極的に行いました。その中で先生方から寄せられたご意見などを精査し、部会運営に活かすことに努めました。全体FDでは他ジャンルの先生方と積極的にコミュニケーションを図り、自分自身の見識を広げることを意識して参加しました。
授業改善のために取り入れた研修内容	今年も引き続き留学生と接するときに相手の国の文化や言語を勉強し理解する努力はしました。日本が好きで日本で学びたくて来日している学生が大半ですので、寛大な心で真摯に向き合えば心を開いてくれるのだと実感しました。まだ留学生の実技担当をしたことがありませんが、その機会が訪れたときに備えて、引き続き準備をしていきたいと思ひます。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2466 教員名:後藤 正孝

1)アンケート結果に対する所見

比較的に好意的な評価が多く安堵した一方で、ピアノ教養特論Ⅱに関しては、授業外での学修時間が十分に取られているとはいえず、その点の改善が急務である。

2)要望への対応・改善方策

ピアノ教養特論Ⅱについては毎回授業を担当する教員が異なるため、各回での結びつきを見出すことが難しいため、授業外での学修時間の確保は学生次第というのが現状である。しかしもう少し各回に関連する内容を予め Teams などて提示し、学生それぞれが予習しやすい流れを整えるなど、工夫していきたいと考えている。演奏会実習のレッスン回数については、担当教員が 3 人いるという部分を活かしきれていないように感じるので、レッスン計画を考えていく際にその点に留意して進めていきたいと思う。

3)今後の課題

ピアノ教養特論Ⅱについては、同じようにオムニバスの形態の他の授業における運用方法を見ながら、どのようにすれば学生が主体的に学ぶ意識をより強く持てるようになるのかを考えたい。演奏会実習については、やはり実技の練習がどの程度できているのかを教員がきちんと把握し柔軟にレッスン計画を練っていく必要がある。

以 上